

平成30年9月5日開催 第4回ビジョン懇談会ご意見

参考 2

<都市圏ビジョン全体>

1	P32「圏域の観光客数推移」は右肩上がりとなっており、将来有望な分野であるので、合計数の内訳として国別、目的別といった詳細なデータがあるとよい。
2	ビジョンを公表する31年にはさらに最新版のデータを使うことができると思うので、さらなる精査をお願いしたい。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・経済成長のけん引に係るKPI「新規創業者数」とあるが、新規創業者を増やすことより、事業を継続し利益を出して地域に還元することが重要だと考える。 ・後継者不足や人材不足の企業など中小企業が活性化できるような案を追加していただきたい。 ・女性の活躍促進や意識改革など長期的な取り組みをお願いしたい。
4	伊万里市においても高校生が市外に出ていく現状がある。高校の先生にお願いし、生徒に地元企業を知ってもらい定着してもらう取り組みを行っており、広域でも同様の取り組みが必要と感じている。 商工分野の施策の方向性（P42）に地元の定着に関する取り組みを入れて頂きたい。
5	「西九州」というネーミングはビジネスの場において様になっていないように感じている。エリアを示す分かりやすい言葉があればと思う。
6	県域を超える意欲的なビジョンなので、魅力的に響く言葉があれば良いと思う。九州が6つの県となった際に長崎・佐賀は分断された歴史があるが、それがまた一つになろうとしている。「松浦」では古いかもしれないが、そういった歴史を示す言葉があればいいのだが。
7	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少により島の勢いが日々そがれている状況。子供たちは圏域どころか首都圏に出てしまい帰省もままならない。 ・新規創業どころか後継者不足で地域が回らなくなってしまう。例えば漁船の修理ができる業者がなくなってしまうと漁業自体が立ち行かなくなる。 ・マッチング、支店制度など産業を支える体制をつくらないと、周辺が疲弊してしまう。 ・圏域の末端地域のフォローを中心市が担い、圏域全体の経済を活性化していただきたい。
8	<ul style="list-style-type: none"> ・小値賀町と同じく人口減少は顕著。特に生産年齢における女性の減少率が九州トップと言われている。 ・島内の高校1校の全生徒にアンケートを取ったところ、島に留まりたいのは10%、島外に出た後いずれ戻りたいのは40%だった。しかし町役場が確認できているUターン率はそれを下回っている。 ・Uターンに関する施策は色々あるが、Uターンの施策はさほど無い。都会から帰ってきやすい施策が必要。 ・所得は都市部の方が高いが、可処分所得はさほど変わらない。 ・「有人国境離島法」により島民の船賃が下がった結果、島民が島内で買い物をしなくなった。衣類であれば福岡、長崎、佐世保に買いに行くようになり、島内の店舗が廃業した。 ・観光客は増加しており、そこからのUターンも望めるが微々たる率なので、やはりUターン施策を進めるべきだと考える。

<スローガン>

9	「多様性」以外のキーワードは他の地域にも当てはまる気がする。佐世保並びに圏域の特徴として自然豊か、歴史・文化も発展していながらも多様性や革新的なことも受け入れることができるユニークさがある。こういったキーワードを加えてはどうか。
10	佐世保は急激に拡大した街だが、圏域内の他地域には古くからの歴史や豊かな自然がある。これらの「深さ」と「大きさ」がスローガンでは表現できてない。
11	色々な言葉を入れたい気持ちもわかるが、短いフレーズの方が定着しやすいと感じる。スローガンに含まれる意味合いは説明として加えてはどうか。
12	スローガンとシンボルマークは共通で圏域のイメージが湧くものにしては。（心が一つになるような）
13	12市町がそれぞれ主役になるような将来像を。ただし脇役がいなくては主役は成立しないので、持ちつ持たれつ支えあいながら豊かな圏域となるように。
14	夢のある将来像を。

<重点事業>

15	農水産物の販路拡大先として台湾だけでなく、マーケットの合計が45億人になる中国とベトナムも視野に入れるよう再考すべき。
16	事例の紹介として、神崎市において市長自らトップセールスで中国廈門に素麺をPRしている。今後マーケットのターゲットとして中国を検討していただきたい。